

特別講演 I



教育に期待するもの

—大学・高校野球の審判の経験から—

弁護士 清水 幹 裕

- 立派な指導者とは

- 名選手とは

- 失敗の大切さ

- 批判は常にある

- 真剣さが感動を呼ぶ

- 愛情が謙虚さを生む

Who dares to teach must never cease to learn.
To teach is to learn twice.

講演内容抄録

○私は大学野球の審判を40年、高校野球（甲子園）の審判を20年勤め、いろいろな指導者や選手を見てきた。

そんな経験から皆さんに審判の醍醐味をお話しし、皆さんが自分の指導者像を描いたり、教え子をどんな人間に育てたらよいかのヒントを伝えることが出来たらよいと思う。

○立派な指導者に共通していることは、明るくて潔いことと、悪いことをきちっと叱ることができるということだと思う。

○上達する選手に共通していることは、失敗に対し言い訳をしない、失敗をかくさない、ふてくされないことと、自分で自分を見捨てない（あきらめてしまわない）ことだと思う。

発明王エジソンが

“Our greatest weakness lies in giving up.

The most certain way to succeed is to always try just one more time.”

と知っていることが正しいことを実感した。

○審判をして失敗をすることがいかに自分を精神的に鍛えてくれるかを知った。人間の本当の価値は人に勝つこと、人の前で失敗をしないことにあるのではなく、むしろ人に敗けたとき、人の前で失敗をしたときにいかに立ち直っていったか、立ち直ろうと努力しているかにあるように思う。

○以上のような事を中心に、思い出に残る監督や選手、また思わず涙が出たような場面のお話をし、皆さんに甲子園の雰囲気をもっと味わっていただけたらと思う。

シ ミ ズ ツ ネ ヒ ロ
清 水 幹 裕 (昭和17年1月生)

・略 歴

昭和42年 3月 東京大学法学部法学科卒業
42年 4月 文部省（現文部科学省）入省
46年 9月 司法試験合格
48年 4月 文部省を退職し、司法修習生となる
50年 4月 弁護士登録（東京弁護士会所属）

・役 職

文部科学省 入札監視委員会委員, 物品・役務等契約監視委員会委員, 工事等成績評定審査委員会委員,
行政事業レビュー推進チーム外部有識者
放送大学学園監事 公益財団法人文教協会評議員
独立行政法人日本スポーツ振興センター契約監視委員会委員
独立行政法人日本学術振興会契約監視委員会委員
大学共同利用機関法人人間文化研究機構ハラスメント防止委員会委員 など

・主な顧問先（教育・文化関係）

国立大学法人東京大学 国立大学法人東京医科歯科大学 国立大学法人東京工業大学
放送大学学園 一般社団法人日本私立大学連盟 公立学校共済組合
独立行政法人国立文化財機構 独立行政法人国立科学博物館
大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 大学共同利用機関法人人間文化研究機構
大学共同利用機関法人自然科学研究機構 独立行政法人日本スポーツ振興センター
独立行政法人日本学生支援機構 公益財団法人日本国際教育支援協会

・アマチュア野球に審判員として携わり、その経歴は以下のとおり

昭和41年 東京六大学野球審判員となる（平成19年引退）
42年 社会人野球審判員となる（同上）
55年 甲子園における高校野球審判員となる（平成12年引退）
平成7年 国際野球連盟リーガルコミッションメンバー（アジア代表）となる（平成13年退任）
15年 日本野球連盟 規則審判専門委員会副委員長となる
20年 東京六大学野球連盟審判技術顧問となる

・清水法律事務所 所在地

〒160-0004 東京都新宿区四谷2丁目3番地 カコビル3階
TEL : 03-3359-3300 FAX : 03-3359-3303